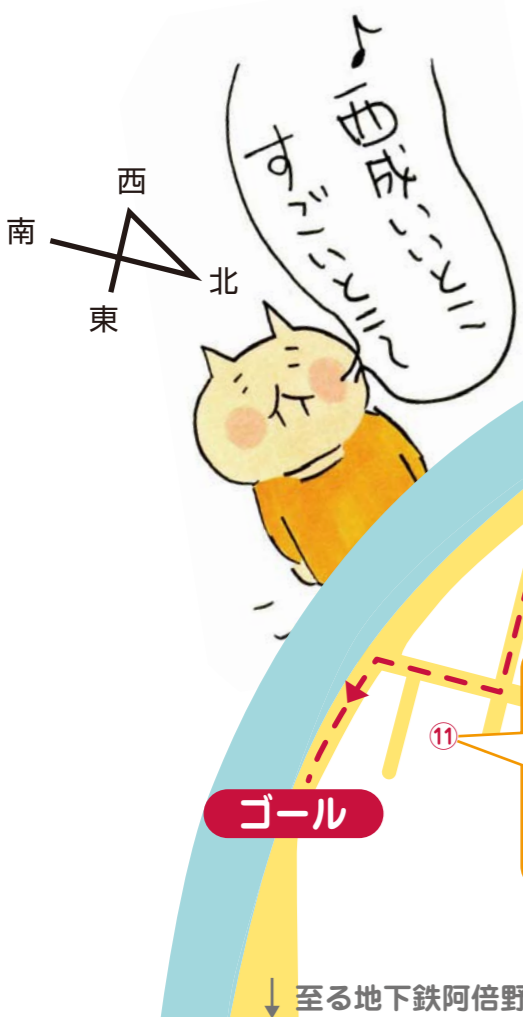


大阪 あそ歩

OSAKA
ASOBO®



11 鯛よし百番

かつて遊郭であった建物を生かし、万博の年(1970)に開かれた大衆料亭。建物は大正時代に建てられたもので、おおむね遊郭として使われていた当時の建築の原形をとどめています。遊郭であった時代から、一見さんお断りの高級遊郭だったといえます。14の部屋にはそれぞれに装飾がほどこされていて、通路の壁には富士山や宮島、豊臣秀吉の絵などが描かれ、国の登録有形文化財となっています。

10 平松商店

創業大正5年(1916)の文具屋・雑貨屋さん。創業から一度も建て替えやリフォームなどはしていないため、大正、昭和の雰囲気の色濃く残っています。ご主人亡き後、奥さんが4人の子どもたちを女手ひとつで育てながら切り盛りしてきました。表の看板横にかかる「でんしん・でんぼう」の看板は開店当時の貴重なものです。お店を閉める扉は今でもシャッターではなく、昔ながらのひのきの扉を使っておりひとつひとつ鍵を使わず閉めます。かつては飛田遊郭のノ門が正面にありましたが門がなくなり、人通りがよくなったため、お店はとても繁盛し24時間営業をしていたといえます。現在もその名残で夜1時まで営業。お店の裏にはこのあたりではめずらしい畑もあります。

9 山王子どもセンター

路地に入った長屋の中にある、あたたかな雰囲気の児童館です。昭和39年(1964)、ドイツ人のE・ストローム宣教師が西成区の自宅で幼児を預かったのが始まりです。教会の財政難のため存続危機を迎えたこともありますが、父母や支援者などの協力による自主運営で乗り越えて現在に至ります。異年齢の子ども、大人、障害をもった人がいっしょにあそぶ空間として地域に開かれ、「子どもよまわり」といった活動もされています。

8 ピースハウス昭和

昭和初期頃からの路地の長屋を改装したゲストハウス。オーナーはピースポート世界一周の旅や、さまざまな国を旅して、そこで出会った人々に親切に接してもらった経験がきっかけで、ゲストハウスをつくりました。長屋の改装はオーナーとお友だちなどが手作りで、誰もがなかよくなれるような、あたたかい雰囲気のゲストハウスです。

7 飛田東映

昭和31年(1956)に東宝系映画館として開館。70~80年代の任侠映画、「男はつらいよ」などの邦画が上映される「トビタシネマ」の2館をもっています。シネマコンプレックスでは上映されないようなかつての名画を見ることができ、若き日の高倉健や鶴田浩二、寅さんなどの姿がスクリーンに映し出されます。現在ではデジタルがほとんどの映画上映の中で、飛田東映ではすべての映画がフィルム上映されており、スクリーンに映し出される映像の味は何とも言えません。3本立て上映での営業時間中、お客さんの入れ替わりをしないという、現在では数少ない上映スタイルの映画館です。

どっこい生きてる。このまちで ~西成の、昭和のにおいする道をゆっくり歩く~

大衆演劇や任侠映画、高級遊郭の建物を用いた大衆料亭など、大阪のまちの中でも、もっとも庶民らしい娯楽、生活空間が広がっている太子・山王・飛田。近年は商店街の空き店舗を利用したインフォショップカフェやまちのメディアセンターの展開、長屋を改装したゲストハウスなど新しい動きが広がっています。変わらないようで、変わっていく、西成。「現在進行形の西成」を感じて下さい!

6 喜久屋雑貨店

初代は明治時代に奈良から西成の町へ移ってお商売を始めたといえます。現在は4代目のお母さんが切り盛りしている下着とたばこのお店です。当時からそのままの建物は明治・大正・昭和・平成を生き抜いてきた貫禄が漂っています。お話をしたりコミュニケーションを大切にするお母さんの配慮で店内には、腰掛けられるようにとイスが置いてあります。地域の人にとってなくてはならない場所です。

5 近松門左衛門碑・ 猫塚(松乃木大明神内)

江戸中期の浄瑠璃作家・近松門左衛門の巨大な碑があります。明治34年(1901)、第5回国内勲業博覧会開催のため、当時、天王寺公園内にあった碑を地主の室上小三郎という人が許可を得て、現在地に移しました。猫塚は明治34年に、室上小三郎が建てたもので、三味線の胴に貼る猫の供養のため、遊芸関係者の拠金でできたものです。碑は三味線の胴の形をしています。

4 オーエス劇場

昭和29年(1954)に浪曲劇場としてスタート。かつては映画館やお笑いの劇場として運営してきましたが、テレビに押されて人気低迷。そこでテレビとは違ったおもしろさを打ち出す大衆演劇の劇場として運営を再スタート。細い路地を入った場所にある、小さな劇場内での、台本をつくらぬ大衆演劇には、日本全国各地から劇団ファンが訪れています。

3 ココルーム

NPO法人「こえとことばとこころの部屋」が運営するインフォショップカフェ。平成19年(2007)に新世界フェスティバルゲートから現在の場所に移転し、アートを軸に置きながらさまざまな人と人が出会いつながる場としてほぼ毎日営業中。ちやぶ台でおいしい手作りおうちごはんを食べることができ、ライブやイベントなども行われます。

2 カマン! メディアセンター

NPO法人「こえとことばとこころの部屋」が運営する、まちのメディアセンター。人が出会っておしゃべりがはじまる場やその状況自体をメディアとして捉え、「街頭テレビカマン!TV」や、他の地域からの若者やアーティストの滞在企画、学生のスタディーツアー、まちの人が主体的に運営するイベントなどを地域に開いて、ほぼ毎日運営中です。

1 丸亀

大正中期創業。西成の労働者のために7分ズボン、8分ズボン、ニッカや足袋などを製造販売し、関西型7分ズボンを考案したお店です。7分ズボンは主に高所作業の専門家「鷹」のためのズボンで、関西型は関東型、九州型と違いふくらみが大きく、履いた時のシルエットがスッキリと決まるところが特徴です。しかし、時代の流れで15年ほど前からは男性カジュアルファッション店としても営業しています。

【注意事項】 この地図は「大阪あそ歩」のまち歩き資料として作成されました。まち歩きには、歩きやすい服装と靴を着用してください。車などによく注意し、各自で責任をもって行動してください。また、住宅地では住民のプライバシーに十分配慮して歩きましょう。

【お問い合わせ】 大阪コミュニティ・ツーリズム推進連絡協議会「大阪あそ歩」事務局 電話06-6282-5930(財団法人大阪観光コンベンション協会内)「大阪あそ歩」の詳しいプログラムはホームページをご覧ください。 <http://www.osaka-asobo.jp> または「大阪あそ歩」でネット検索を。

大阪あそ歩のコースは約2~3km、2~3時間程度を基準として作成されています。